ことゝもあれかのまことあるしるしの白絲も
ともとゝ侍りけるまゝ
哥ゝ書をとゝろにとゞめ侍りしかいくかの
日ことのはを重ね侍りしかいくかの祝言をもの
ゝ侍りしかいくかの哥ゝ書を返復せしかいく
ゝ多の人ゝよ過ゝまでとゝろにとゞめ侍りし
ことゝもん佛法のも白絲ともとゝむ
るあり景物を事ことする好士ハ白にふゝ
なれへし
未得人旬系玉得人意旬系向ハ敎意ゝ理通

敎權理實こい勉ゝ
心ゝ有法輪廻生死一心覺知即ゝ生死と
いふ事ゝり
一度見一心永超誠生死
有爲報佛夢中權果
ゝあれと定恵意旬そ多くゝん
この先達ゝへゝゝ式
ゝこゝゝゝ
をゝゝんよそゝ風雅をハ
ゝそ過ゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

しの志つ心あさきをひすのうにも向自とそまのもの
道あれなとゆあんをもちうるあき事あるへしと
いふこれんすることやうもてうるこもかうに空
ほさとをうち祐のなき天よ階さすとのゆ
ふかりれんめうへしものゆよっるとこと
こをえうやうるへしことめうへしことを
栄おそおすくれ自れすることはうあくく
かをほと十代をとのことつ
るらもうえいハ月をさすにもひをおとるをを

とひ又人のんとをあをとうえいえんのたちさ
ほあもなといへう
う後云云ほすることおをまてハうちめうち
はあれとんえ二重三重にせよおいあうし仏法
も法家を面くうれあり

儒釋道

志ハあれとみのりとハ一多へし
清茗和尚云う歌人の詩ハ
風体おあとあハせうとおとの第一位ゆんまと位し
もうしこと河まや

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

いれもんさ〻あさ〻誓古之更をろそろあろ
ふ巧無智凡人のきさ〻う幽遠のこうろあれさ
ろさろ井をおろかもろそろ人さにおさ〻ひさあん
ふもろいろもろれ事を学ばれお学雪浅つさ
ても浴もに給援自私のおあ〻い労劫こうひる
ろ人〻〻ことあり
定家御の納れすることおかろ月秋お天女れ
面新うにあ〻れさ〻うをも〻ろんおろひろ
へ〻あとや作り
人死亦人の跡納をもたその人のあとのこん

作るそうにやろおいてれる人の服よい玄妙
寿形あろ人〻といろ西
杜ふ義ろ語をも五ふ上慢いむ〻ろをまさてさ
佛の仏法をも五ふ上慢いむ〻ろをまさてさ
ち作〻さ
意勇報ふそい分別もうへ〻法ふお
いろてい絶ふのとろ〻ろ
西上人も跡道いおふ人おお禄定跡もれろとのう
務ひ〻とあんまをおさるにろう作〻い頓悟
生活の作りなろとい人を

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

絶信亡和歎陰遁入菩提殊勝如実相理二十一字
路玄如実相の理二十一字なおさもれおとらへる
球宝蔵御作肯経多んこころを採揚し於毎利
後成て老ほろひ於へるとあん人おいかるへす
大事あり仏道おのこよろこ
生行を忘想なくしそすて歎ふに
於へるこころいてきを於へる位吉大明神あたよ
現ずてうらみてきめけるをなそこのお
ものことあれ仏道ふるる菩提を絶於へて
鈍遠即身主流の源引るへ

於ひしきれい
篇序類曲流のみ八五大不成五仏五智圓明
体あるし
六義八六道六波羅蜜六大無量法界の体也
古今集灌頂をいへる家お一大事こて傳
行ようをものもこの経道八吾國の陀羅
尼也経論をよく禄宝経論をといへり
中津於ふこのこれ
里おこれてうきを秀逸とのこう歌を傳

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

[illegible]
訣仙よりも仙訣の影をとめて行れいでうう
其地訣を寺物よりも速奇なる匂ひおほひ
さ面まで空匂かとも玄妙のことに多う行まれ
とあり此芳悟也并多うこゝろもとへて
西有涼徳佛と云匂に南無観世音
こゝを書る寺物の匂にも多りうてう訣も影を
めう〳〵してもむ一れすることを
其をいへる
南殿の花軒

公忠朝

殿の月ぬまやに恋あり〳〵仁重うう行うう信めすか
大井川をこまて紅葉流水と以るこゝろ

藤原資宗

いでてよ湯てをうんかよ
又和泉式部の小式部にをれ行まで三歳
ありしむすめ此のこゝろ
せ〳〵此てあるこゝろ

和泉式部

おし此さていうれあ仁思ふ也まてふ行うう

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

廿句こそおもしろけれ合ものもあひ
人のこゝをおもふべき作もの侍るもハ中〳〵ふ
ゑん侍りもしもれといふ
詩おいり句ともくあまり
ハ嫁侍り連歌おいふ
廿句はよまんと侍る心せ
う侍るへしとも
末代ころや哥のはゝ
これおもく侍〳〵辛
まてもなりぬれ文字

多くへし侍そのうちなとまたいさゝかの
侍るへきこゝろさまそれ末代ころも写ける
夏草や春九句新あ
廿句はすることの入句ともいさゝかもみてもも
侍るとありこれを文おも
しこいへり
歌おハ来来紀こて嫁侍
ゝりもゝりこゝろに代
班句をおこゝて侍るこ
とありこいへり

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

集句もも此ことに似たるを作り定家
明月記もよも事なつて後へうとなんも
句を面白くしたるやうに作りたるやう
へなりいたるやうのもの
好士は世すてお作りたる人の作りの人はまれなるべきれた
我のれ人おもおもうをこれをのれ人を
もてるやうれへよと文あるもいへり
箭筈題曲流はおれ作る也
箭人をうめるにいまあすべきるべし
筈はやはきと身作る祝の句也

題は此事ひとおもてるみとのごとく
曲その意短歌あるはかくしてするみえし
流いと面白くいつるを面白くいふ也
此五七五面白く連歌もよくて
吟合てうるく心とゞまる感情あるを
やうに名歌の後を面白ねんもろのごとく連歌の
上句下句もくさうへしと用ふみる人の句
ハ無て寛をきにをきを悪いたく事あり
句ともとゞ此差悟みをきハ指揮れ句にまの句
れいそみつまみさみをもひまをもひ

大やうのひかりのこと
思ひ給へ出らるゝ事のうちにも
ひのうつりてもおなじにいひ
しとこおなじ給へるにかへ
かゝる能因の句も曲のふかき
にかへて句ともいはゞ
れいのみやひかへしく
ともおもひもさだめあへ
月のころもの雪れ給へ
かゝるあり田舎又うた
あり人の心も知らぬ花に
詠るみても雪いまも
散るうき世にしら
ける白の花に曲のふかき
あるべき給へ上句の
類ふかくてひみいひれて
るべき事
面影のうすくかすこと
花みるこゝろのうれ
まんべうにはれにはあるべき

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1

ガラス使用

いて入まて月ほてそ
ひ二句おお句孔上の句に曲の心ありてなもろ
伝れいたの句ほい箇序題歌よありてお句にいも
せくいひろて伝り連歌ふるひとれ句ほ心
ふれこてて下句にひろそせ下句にひろと
してて二句にありていをそ句のことそこ
とりもあるれ感情をこれ作をこれ
ほ箇序題曲流といへるれ各一句をまそひも
てるいこてろにをれをふるうりあり
ひことうりにまもひあをうりふるひ方通乃物

破急諸経諸論ほ序正流通周縁辞喩乃ホ
にまもひ伝へくこも経ほ序分正宗分流通
こてもめ序にいう句くほ孔周縁辞喩ほ伝ほ
ほ正宗てて経のまるこれをすふほ又
流通分そそ経ほ徒ほふるくひふるうと
うとありいう句人もをれるまほ伝れるも平
乃の箇序題曲流ほおひうらに詩も記歌
輪合ほて込るもおありほれて古人の説もほ
ハおりく序ほをけるまほ
あ〻月ほ正ほこれうち

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

ちかてるやそとあつ
あつさうらいそへれ小鳥のすゝお
郭公なくやさ月のあやめもあやめぬ恋も
妻恋のたゝおいあらぬもへとてあふも
みちのくの浅香沼のあやめ人を思ふて
吉野川岩こすなみのゆくへ人を思ふて
又中に分くらく高
れをい半腎れ句とり
ふりやうにやすあるもも
こも我をれ侘るよい
まをかしてみちこ

雑部 夜句をそめられてる
あるちよふれそもうた玉の系ろことをなそやそん
うかひおれそろ氏士の八十うち川のやおそ
いる山氣も林のまであれ系の取ろそうか
又これの以く陽句をいへうれし五音
お通せるをいへう分ら鈴北病や
山うれ月よおのへの
社風雲松の紫名句ら神あて
あとこへろいあるこれ分実用こし又連
歌もおれ紗もおこくお句にて向ひて庫

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1

ガラス使用

にてそそう一体作り古人の句ももにいるこ
作り
　神のいうことにしくるもあり
れそこせてみのにいることめぬれしめ分
うほそ愛う行みてそそめ
猿よもつ花のさその第松字はの心　周門
ムより多うこ事に也中　叔海
分をこのかてそそうこをもそそて唐ん句
如此一句にことりひもそ作り歌ふ曲を二ホに
まもそたる句ともみ

いへる我さそひ作り多へよいろ多やもあて
もそおおくさ作りとしもしるすふいとも多
迄ホのこひるすふいとも多
詩よい六義とそ先詩よう六方することを
多連続よいあうへうに代
計事先生に等多作たむふことれん句を
ふそう作りて覚悟あ
風賦比興雅頌六義也
　風の句を続の人
名いあく新いえ多郭公　叔海

二条摂家さまを称えにそへて挿頭しあそばすべき旨のこと
ばをうけたまはりて
風乃匂といへる
賦ことをえ
いにしへはゆかしかすに成おゝり 敬海
花ゆへ通ふこゝろ匂ふらん
ま心をとゞめ殊勝なる
比乃そこへ言れん
下乃葉ちりにまじりて宮居代 敬海
教の字残りなきをおもふべし

比の句ゆかしくおこれり
奥ふかへ訪の心
ふりがたい岸乃松風
色ふかき初よゆへ
てふへくる奥の句なり
雅ふことゝれん
夏菜も花乃妹よかし成おゝり 寂意
ふもちにこと案心残めくそひゝる句さ
ましき称雅の句なるそ
頃いと幷訪あん

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

花橘見ゐる玉の如くなる　成行
かめいもるあの心れ白うへ頃れるあり
けおれる白うをもるゝ待るもゝをもゝもあること
ろへうしひとよ神一会を中斗也古今集
屏風ゝ我ゝあさゝ歌ゝ書ゝれゝみゝ待ゝ
歌よハ十体を分待ゝ
連歌よいさゝこ引さゝ
連歌歌の道いさゝれ事ゝもゝかゝろへゝさゝ
待ゝ先人のおゝ待ゝ白我おゝ待ゝ
ゝ里

幽玄躰
秋我ゝすハゝ
春日野のゝゝゝ
ゝもにすゝんゝひ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

頂覚

敝衣

敝衣

敝衣

松風のふきおろすなり　　教納

事不慈体

人おとなれん道もあるもの

花ちる後木のもとも物すごし春ふかき　良忝

まつひとりのこりても里にとをれる

ちぬ程のまつもさびしきよりもつまて　同

かこちもと雪やまうさを成めん

麻の雪こりもあれの心　同

くもり心はらやさしきもあらん

多武峯すみ染の雪のあかつき　信照

春雨のふるにはあらぬ軒の松

船よそほれる水をこそあれ　順覚

高古倅

雪残あるてふもとそそれ

ふるのは八人のさるもゆるくて

かうも残さもむるまろうこと　善行

あしを折るる賀茂川乃水

心ゆりおろす筆ふれ行ふか

強よりハ花もおもふもらさいそ　良忝

みちゝ歌をれハ行あひぬ

ゐるあのむ社のは名れ暗のあ　家隆
家とゐてこつにつもあさるん
寺ちるさあすの里に住あろ　十佛
面向体
心あけくもらぬ秋のあめる
えとろふれさそふ秋さも　度仲
さぬさのをとそあさこあろ
秋さむさ衣打屑よく　頓仁
末すゑのよりの林のもる露
山のとれ社のりろ月あく　信照

いまいろくてさえ久里れ
をめれいとみありしんまて　教海
人のうそこそあもつるにまぬれ
松未ゑく雨さきのつるにまぬれ

一節侍
あさこれをいれのそ
なよのよめろうさそれある
かさ枝いうみすさそ名れ龍田川　信照
人心ありひこぬいろみて
草野そ小のよ社るれ　同

多よりうハ遠きほとゝぎす
まち日数をハ屋ごとに
あまたゝびこゑ〳〵急のいそぎされ松　救済
ふうりうあることといたりて
いりえのかすてうたよの中　同
有心体
桂なる山のさもしさ
ゆきゝてはいとハぬ里もなし
これうハきる心に成やもん　救済
見ほのゝ杜乃雨もくれ
ゆきてそきゝもあのさ
あらちゆくゑほのゝさうに同ふれて救済
人よきうる谷れたこと
風うる瓜木の山乃あるさ
おやよううやすうあるさん　同
うもしたれあるさいうあるさ
春高神
かすふうりに霧むすう
春雨のもるひのそれおて　順覚
あまりに遠き山ちうれを

かうさうれもうねやこうを
道をれうと文こいこと
月のまうへろ二ヶ月のお　良阿
日ばかりあすの戸の内　信照
ばれいうに時うすやりあて
川のとこに船そ松れる
えうりかうまうの重さう　十佛
えんもの形うの山のあうこ
鑿辞
月こそむろれこうれ
えんもの形うの山のあうこ　良仁

物うあもこのこいのう
苦やいうれ形をうもうん　信照
いうこすくく松風を
但吉のうれ面に月み
こそやぬいうに色を先立て　教阿
刀れ野れ森よれこうの吉　良何
うろうまうに入あひのま
捨一世の花をいあれおもん　同
滝辞
水やのうて森とあうん

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

玉勇のこゝろおさをゝの枝　信照
その名をもこゝろひてそゝ九ゝ
春風いかゝふきそめし山本　良門
玄ゝの人乃数そすくなき
このさにそいかゝをゝれおそゝて　敬舟
永ゝうゝそ九にけり代代
うさこのみこのみ流こゝく　若阿
いはゝうみ九山中の月
さ朝うのいさゝとゝ雪晴て　敬舟
強力九句

舟おかむうえ乃松
これろ山神代久ゝさ宮ゝら　敬舟
いのちあり人ハ未そえんゝうさ
売九ほゝろふとの乃ゝ
かなてふへさ日数ゝもあぬ　十仏
時乃鳴人さ月ハさゝまりて
弓矢そ売九おさあこゝろ　信照
かゝる御代の山田数の上乃　周門
鳴ゝ月もおゝねゝ
春数さゝへゝ九ぬこの日も　敬舟

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

住吉小野に葬送り唯ん事
をにいまうせく侍并やく諸ともやみのうけよ
りとも毛おかつかさ事
也道おのそ意長
てくうとみくりをひの先生て芸侍
阿法師とうろものしおれ門弟相順芸侍
良門十仏事やを海
故海法師仏道の事し度
やむことなきの侍し
永のひまり八梵燈庵主
おすゑつく六条不断庵
んおそをのいるうそ
のひまり世おもれめ八宗物語聞書
なくなくし度おい清
候侍て秋の道ともれる
乃侍そそ残おこと
まりて後仏みそ
いまも清そ芸
くそこと通
人の出行ともこ

あらそふ二世のあらそ方法あり唯まかう
此経のうち所此理のみそよりされよの名思
諸多くそれも天然法あるむつてのふつ
しや仆事もあらハあるなを

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

羣書類從

三百四下

127
666
1

382

東京圖書館
和書門
叢書類
二四函
六架
七號
六六六冊

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1

ガラス使用

温故堂蔵書之印

TOKIO LIBRARY
東京書籍館蔵書之印
ESTABLISHED BY MONBUSHO 12.

明治年文部省交付

群書類従巻第三百四下

連歌部二

検校保己一集

こゝめ一ゝを下

歌のハ親句連句こゝろ事ゝ多ゝ侍

ゝ一ゝ説ゝいあゝへゝゝ代

先人明ゝ玉侍ゝ也ゝに神の分別あゝゝか

侍ゝゝいゝゝゝゝ句の付ゝ多ゝ必ゝ

ゝハ一首ゝゝ上下ゝ親句連句ゝゝ

席札ゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

我心あるうき物と歌の上の句ハ体句下の句ハ親
句と又各一首ながれ上もの親体の歌ながら也と
下れるうちうく心えやすくひとてるハ親
句の歌と又上れ句とハ下のうとんでも通しながら
あるぬき両れる我も初きに絶るハ体句れ
歌ありしと也定家ハ云秀歌ハ体句れ歌よりあり
親句れ歌のおもれ歌ながら連歌よりも親
句体句の付き面白ありて連歌ハ体句
引寄用や
体句連歌粗

如くに多田我又ハ
あり引の山我あを井のうちいて
りめもそもうぬを中
朝夕にをてかへるおさつ波
これやあをやにおふるうき木く
いかつりの男ひとに見んや松の竜
お句れすることを染我をてひあすにんのく
絶るけおれ名句ありすまいとあり
松ありく体句解歌
詞れ居る波の打れ松ありてれんちをすれ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

靈山の釋尊の御ちかひ
おろかなるこの人のみうえ
國こぞりこつのみこと
相のもとをうつし成
権のみうへを本地
大こころおよすべき
佛法も
親句ハ教課句ハ禄
疎句ハ有相課句ハ云相
疎句ハ不可義課句ハ義理

大悟の心我が物ならいはんやその頓道乃生死我
もあれ給うん
法ハ
空門大悟をも於有不得
門ハ十喜六凡四聖一
法花も法法ハ皆我
佛九五十年説教も
巻り
ちゝハあれこ初九
見ゝうてハ姉うこ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

外宗用こゝあり

従因至果従果向因

有相現句外教道ハ無相法身諸句外教

多くしいまだ説もとらに思へるに

沼来形像ハ大智より発

紙墨経巻ハ法界より流

一大事因縁ハ小宗より出

さるも有不得の法を説て人を化度するハ三

多世界の人ゝまるこゝあるもこゝのゝと

説あり

むり教化ある人の心道をいふ

ろへきことをたつる行者ハ

かれのすきさる月と

れいもなおにんをみいえさ

こゝりさるの人をもあらぬ

のこゝろ庵これのすきさる今も有

の月をうにてや侍らとあ

ふもあらぬ人ゝ修もあさか

又古聖の教を聞へ行うにけ

んし法へとゝへう

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

源公忠

かねてこそ
よそのもみぢの月の夜をおもひやりつれ
それもえんにさうのひかりやうに面影徐情小心をみ
行ん
こがりけ道よ入んもろふまろえんをむすぶ
引すへき事こそあり艶といふもこゝ
と茶のやさいを花めさうあるにいまあるへくもあれ
うち清く人間の多欲うすくつゝましうつゝのあれみく
和こと話あり事をおひあ人のかさみをそれ
そをの人のおんなひ一の命をもかろくおひ修学
人れもなり安き白あるへしと心ありうたるもか

うの句ひすうたをやさともこゝ
みくりいけうれたる人
自讃ももてうをうる花めき
こに上代の称すること
ろなのまなこゝろひ秀逸我も
家隆卿入行うこうこと作
そ称ることい侍れしとも
人ひとしれぬこゝろ歌
うとへへう

廃居士ひとうこゝろをて帝

しも禄の斥すの祖師多り
傳説い相伝うち道球作り
こ殿の爰に入るや
張幹い勲とつ一かもそ
ちろあれこるろそそれいう
そちとつ伝うん説道の肝要多へと
な祭
一の祢に心我みもうう
ひおいろへく代
先生よ尊伯大もよいつれの

てあこいかり死人こい中伯
なそう伯う語りそこれ
老子周して伝せそお人い
伯美叔齊い重れ清と仲平い清れ和かう孔ふ
なこそ附多う代こいへるとみん
仏をそ両足尊とや伝れ三宗れふみそ
かれ角
中も幽玄辞我んこそて清もー伝う人こ通る
う代
古人語伝ーいそれの句もそろへこちふ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

もゆる叶要多へてさるもむしろ人の幽玄たる
れともかくの句となるのおもうに侍ることあん古人の幽玄
神そうでも我宝の心我宝風おせ〜に成るのつ
のな士のふるさハすることたるしのやうなるものを
ふる物ゝそんなるものハ入ることを通り人もすることを
のひしくろ〜ふる旅人のことし心我おさめめうハ一人
なる角ことなり

幽玄体

天智天皇

我の面ゝうはの雪をとりて我衣手ハ露ぬれつゝ

人丸

ほそ〜とをもそよ〜みるうゝ我ハ妹思ふ別さぬれハ

元真親王

見ぬ恋ハまさるこ間都波分うゝ我つゝもつゝんそ多

伊勢物

わたんなるもてうゝ山ふうゝ人とあらんこうゝん

曽祢好忠

山里我雪ゝまきゝへてそ人の社ふんなき

ひ本の名所ふやさく幽玄ゝれおこゝさゝめうや

て栗んをゝるひ待ふ角へよふ成ゝれ之ま文

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

まそ心おのひとつゝ
いまゝへ勅宣あて十枠の
うへさう紙を付の字仮ちにおろすに

有家　家隆　雅経　寂蓮

巳下八題玄旨を宗匠として
殿垂撰政家　後成　通具　定家

かとい有仏枠を高貴玉枠とあり仏枠ちは
おいれ物ゝ面をにしものの底ろを出ろろ紙の
さをあろへし

定家卿

春雨の来ぬみそれもものさろかこほり
よ

為家

ゆく秋の日影の日にそてつゝれいつる鶴の
さほれ声ゝ育れ文字もゝ底ろ出ろのも
云ふよふにち流もり出ろ多ろへし人の口ことも
絵のうに仮ちん好士れおりひろ人ささろるにあらさ
れいまかこれある人ものさこ好士ありてこ品せん
みるもこゝろれる人のゝ大切の道とも
二乗い大乗ゝさ空ゝ大悟すこと
定家の詩歌の十体を分拍中に

故御前有女房秋風滋幾許人暮雨魂

男ひとそ後業とて

家隆

けふこゝに思ひ捨てよ後の世を

おもひつゝこゝとに代

要之百歳の秀歌と云々

日々たゝかんそのゝれも我をねん

さゝめよ我身入て

見又秀逸とみをゝ代定数もいつゝ

中納言

此道ハ先達を後学へき事歟又亡人のゝ

ゝ後学へきゝゝや

後ゝゝ代いふも先達を

されハゝさをたつねて

道おおゝゝ人おおひ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

きゝゝゝ

ゝゝゝ

ゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

善智識者是大因緣と云事
知法常云性佛檀従緣記
此比人のかくの如く尺八の上手多きやうなれ
ども其ものゝ心ひかたく人にもやさしく
へうきやと云ひたくこゝろすこし驕古しかたく
やさしくいたしたく事うらやましくこゝろさし
き行ことも心のそのまゝ道ありすな
かにありぬと云ども道ありへし請道よりたた
るをもちゐや
君子交如水小人交如醴

小人汉賊爲空君子以友爲鏡
不直友ふ若早離
たゞ心よりをぬせよ行れども人おまて
うんもかさことに行れもあくまく行こと
もあおのひもいれぬともめにまかいなな
く代のもちるをきこゝり行へきことをもん
志ほどみぬ人への一面半も尚行れ甚摩を真
つさ行ることおまくのりくいることあさて
みとうそ行へきことあれ中のもさあれい
さすにてこゝろ人のあり行ふすか

珠多うへくゝ

戴安道い雪九歳の月ふるの泊おさおとき
して玉子献をる給ふに月ろれ給れい
奥よ家てきろう角そ献こう
門ろうあいすて強ふ艶ふきことやや
孟母いそひこと多ろ珠久給ことも
白牙八子期さう給ふてとて結をこちゝこし
仁者能人を好んゝ能人を悪らんをといへう
そ父珠ろんこ思ろ甚多珠ろふの人をを
んこおりそそ支珠ろふのを

善友親近珠第一そこ佛法もいへう
因縁生の教お自性多ゝこ云
道よ多ろけふそ人ハ花の下半日客月のお一夜
のよ珠も心ある珠い云
給ろと多り
清気和ろまお語多面ゝ面風の日月雪九夜
もし道の友九事のふひそ多ゝ給ろ
こあろし情ふろ氏
又ほろこふそもかゝハ請ろお邪路お入て人を
給するおをおりそこし

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

老子淡人為宗以人損物為徳
侵淫之瀆膚受之愬
いうてかうゐよ入うゐ好士の
多う作う
先生ゐうゐ淡もこ作うい
一字ゐもすもひうゐこをゐ
のをゐんまて覚悟ゐう
我思う人の句をい一句の上
ハうゐこやへうゐこのうゐ
小野道風ゐ手跡ゐも極の淡い世ゐうれる

人なかうゐとゐ判
千和ゐ玉ゐもこ代めよこそゐう人作ゐこ有
仏法の同教圓成ゐうゐて百家をとてうゐい
さうゐれ分別のかうゐへ
此道教誓古をうゐて淡い去うゐ
うゐへうす
古賢ゐうゐ作いうゐれ覚雪筆をうゐても淡
も立更去いくも多く成てい法ゐくうゐへし
ゐうゐれい一日ゐこうひ男をめうゐという
此世一の人ゐく此所とゐうゐ法作しこと

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

三日うち続き侍るハ多くしてと
に付れも法道の用心おすゝめ侍るべきことも多
又人のうち侍〳〵焚灯廣目供道場すべてあるまた
くに年ひさしくさゝゆうひて後やこにいろ〳〵
しほ道心ふかき法多く外うち連れんこと人のあるを
侍りたがたうち侍んも連弥六郎もあさ時
ごと連弥をも侍れとやこんもも
ともろ〳〵おもの用ふよるべきこゝろ多くし
をもあつてかのめす作を侍重一の人ともうち侍ん
や又ふたり〳〵おのおの侍れありたうちあるまいそろ

さゝぬもうへうち侍る式
先人うち〳〵大もをも〳〵時
ももそ侍のさゝれも一人も
侍れこそあり〳〵けあさ
あるんせんあさそうやさやう
さんをもちうち〳〵侍もこうち侍
らうへしさゝれいめこさ人の
うちおりこあを
定家卿ハ日心おおぬ頭を
侍そんしおひしをいへ里

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

不如御人善着好之不善着悪之
孔子もはおあてす顔回も不幸し
仏のは名をも云れ人いやすとも
涸底れ松のひとりさきに先もこそ
ひ道いうも世にすくてき
へこと事なき
先哲のそう伝ひとひとお名我思ひ
分のうえを重も伝へしく又さるに入まてふ法
て閑居幽栖のく必ずまとくもいろあり
定家て為家れ歌をといさあてや好くろとみん歌さ

やうにの弁もなおまるれこのやかうめの
て梢ま箭新をこうちてはいてできぬ道あうさ
れは海の歌ようくすること亡父卿の御しおひ
しさ面を面をお秀逸もいてできぬへき事依更
にもおおうほそくあうにむひ重衣
すけ為うみおうきろれまて
れのひそそにうに桐火桶をいさ詠吟の
新古今屋のようしてれ人をまに
てうちおさおくおんまことみ
おりれ行へすこさ伝たお艶情お

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

あへて感涙おさへがたくこれを行うにつけてもやるかたなし
家富てそめてたのうもあるにもこれ実なき千首をよ
もさうあくの事ばかりのそれをこれをよみて
定家卿乃詠を誦するにまことに時ハまことに冬月をうえ
ものかけるさまも心地の時句をうそうに
ゆくもうち巧紙利根の女もまことに教んか
てハうそうもうそいうもうそうもうそうもうそ
人のをひ道のたゆれもうそうもうそうもうそ
里道ゆくこころ侍うかせにやれあるを二人
もかうこうそうたをうそうたをうそうたをうそうた

あ神のれ罰を蒙れるをまことに家つねんよろ
ものうそうたをうそうたをうそうたをうそうた

道国入道八十ちに及ぬて秀歌を心ゆみて侍ら
宮の月をに来ることをうそうたをうそうたをうそうた
登蓮法師ゆきすのすきをこつよ侍らん
こてあの歌れおくる我まこて養うそうたをうそうた
あこにこてり侍る我人をうそうたをうそうたをうそうた
のあるをまうら弱くうそうたをうそうたをうそうた
まうものをひていて侍ると也
源頼実八秀歌一首をまて家我めやと数を

但吉祥和尚ト称セシ也
智恵勇一ノ舎利弗モ信ヲ以テ得入ヲ云フ
悉達太子王位ヲ捨テ山林ニ入リ苦行シ
シテ成ル正覚ヲ以テ道ヲ師トシ給ヒテ法華ヲ
説給ヒシ
如ク薬草喩品ニ於テ種種ノ譬ヲ以テ
縁ヲ説キ給フ多ク人ヘシ
いう
いう迹門ノ事ヲ以テ酬ノ意モ
ヲ指ス事ニ非ズ本門ノ事ヲ
ヲ以テ本門ノ事ヲ
ヲ以テ本門ノ事ヲ
ヲ以テ

代弱龜ありひあくらんいうこと
ありことていはれの人の百をせんと
はうともさうへありもとろおそろ
ハ煙こありありひうありいるこそよ
里もすこやっこれいまへへの新人い玄男連情
珠のこ家ら作り
仏も心婦くろうへ行て馬我久しくなの
若引おいもうまに鳥れすうまこう
法もこみ珠をあさうめんこ思う世間ん
愛我親せを私を

語も杜子美一生外うれへと
秀句ハ閑家の人の心うこいつ
閑居幽栖のことをありこもつま
の玄私への打よむりひ世中の
里こことれうありこもえしひさ
も言ろ我まこぬいされをのこと
ま我うれこのこありをせるもせみこと
おりひをうくありよろ名あてそうくありく
おちうまろひありこそ我ろ
こ勿世ろに投いこの一をちい

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

これのみならず万象ノ上ニ
ゝくゞ
又年始ノ礼ノ会席ニ
も必ズ
らんニまさゝるに
かゝる事の会席を
ノ道おろそかなるひとの
たゝ礼多くノミひとへ

ニ
極
ノ
ノ
ニ
ノ
ノ
ノ

ふだう
ふだうすへきさまを
終日動もの動のあるに通夜靜もの靜
らんとも
隨衆生性不変不同
一雨所潤各有差別
同聽是衆のこと
器用のもの暁学多
ものへあるさまもものへく
ひ道いひとへ閑人のもてあ
まもろもろうるさき
乃多へしいうもの老後の
さ九好生多くく
家隆卿八五十ちれ
え侍こと
齋院四十にちかくまで
しこと
朝ハ道俗多て夕ハ死す
詩ハ歌合とて作者の名を
さ侍ハ人〻のあひ
あさうめさる多連歌

まくら

實に連歌のいとなみの用心ふかきこと
もろ〳〵の式初心ふかき人もうらやむばかり
うつくしきをかの人〳〵よろこびあへる
ちかきほとりより連歌を執合の儀式のすこしも
事もらすまじきよし申ければ
それかうへんありて指貫狩衣直垂
あるべきやうなどくはしくまうしてもてやしなひ
た道のありもの〳〵へきこと
も昨花ぞ君とまがふ春の夜の連歌也

道ありさま近代いとをのれと得たるさまに
侍るひとへよろしからぬことなり

詩の點いさゝかのことまでもたゞしくあるべき
なれど連歌は點いかゞ侍るへき
先賢に爲侍り連歌の點はよろしからぬ
らをもて用侍るなるべし
ろよいかゞもたゞしくあるべきことにや
とは侍るへきにこそあめれ
も此うち拾侍る點をとるべきにや

不論の行人さ〻ぬ袂の墨よハいかゝりけん
もと栖そくもあるものぬの行ゑめつらう連歌おハかもろう
ぬことのはをまさてゝ侍るめて世よまれよ侍るハ
うたて侍るとさゝれい跡い作ちの大切よ□こ侍る
一人ものとる道ありおろもをも他人まとるを
あること統よいうこともあり
道よあるさけあるこ人の中に幽栖閑居を事とまて
常ゝ舎席もあるんことを世よまろれる中に名をし
あるうもとうて侍る人あり
先生法侍ゝいうもさやゝれぬ士の中よ侍ことの
人もあるへしとあり
人玉て賢あるにいと多ゝ水玉て侍ることに魚多ゝ
許由い箕山ゝ衣のやもろるに松のをにむゝき
風を学て人間の美をさるる面せもとも
新渕い一箪一瓢のことのそ美
里と云
処子雉いさるに山ゝ出すて命を捨ゝれとも
実ゝ食日い天下に去をそろるとや
西上人い海ゝ入ものしかと昭さ世よいその名
浅照さそ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

鴨長明の石床おハこゝひ
維摩居士の樹下方丈おハ文殊大聖ゝゝゝ於
しゐへをり
猶この旅仏おハ利も徒もあく仏の神変を従ゐく
ゝくかるもあるべく八
百我百猶不如一悉一万言一万答不如一黙
多不執巻常讀ひ経ハ言聲遍誦衆典
君子憂道ゝ人憂貧
ひおの人ハ心水月よむひ旅林の花よあゝゝ
いへを

又艶多旅仏をもひそゝにおかく侍り道ゝ外乃多八
耳病反毒薬皆在人台中神力業力ゐめくこゝ
といへを
富ハかりこゝろも為にハ
仏ゐも五十上慢ハおゝむひゝゝそまつて道を
巻てたらしこゝ
又云ゝゝ放逸をゝゝゝゝゝ身をうくゐを好士世
よおかゝゝをすゝ多旅人のゝゝれ侍りゐれよハお
らゝよ多をゐくういつり侍るもおとうゝのうら旅

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

をおかうへしことあり
又道の心さうあさきもの
ゝ上をおもひ数ある
れすゝこゝをてこゝろそまぬ
ゝ法道よりこゝろ
をて仏道をもれ中に
ゝとしたゆゝのともうゝ
なとも他をとをそもをれう
ゝちにをくるゝこゝろ
をといへり

勉ハ一すゝいゝて貧たる
ゝをも嗤ゝをゝるこゝいへり
仁者必有勇勇者必不仁
放逸の人数をおつゝてゝ
佛神の法楽にゝるへゝ
りゝ多のゝ女ゝ
古賢ゝゝるこゝいゝりゝ
感意ひゝゝめゝ
仏及五百羅漢ゝ
ハ無量ゝ福をうる
又破戒盲目の妻ゝりゝ
ゝゝ敬ゝ
仏心者大慈悲是也
六波羅蜜ゝも檀波羅蜜を
ゝ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

志うかあれこ不浄ゝ比丘の供養をうけ礼
せされども法をう
いかもう道ゝ入うる人をもまれ
ハもとやさとひとへおうるもあらねとも
あしき業ゝあつまれハ第人当堂ゝ行ることを
うけおうるかく
衰ハ業ゝあれもまたハ貧ありこと
辱ハかりこれともまた父ハうこくるも
家ゝにおうるひとうけとくゝ妻ともまた人ゝまあり
もうけとて人ゝこれ

人能道ひろし文人ひろひ
黄帝ハ牧童孔言ゝも信せ
徒家ハ農更のいうあもも
更のゝ下に問あをもうこと
大公ハ渭濱ゝ釣をうかと
古備大后ハ淳つ耐国
位あり
阿辱位ハ金極
一念ゝ誠を
中比頃ゝ業ゝ運とて

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

往やふ宵ありそん毎く述懐のことせてと其代の撰者
四首以外ありて九条にて演ありこひありよ
ありの歌十余首以外ありまことに雪て後日よ我ぞ我
きりいてやありこと道の枕ありまことに頃ありを
世よあくる歌仙ありまあ虎嵐ありよくいへを用ありて
ハ袖をもらすよとも用さる世よい虎も嵐のよく
ありこと又不宵の歌人ありる初よ公こりをもりを伯
へく慶運法師とこハのとき来れ枕詞ありを我
往ありく東山巻もいへく菓唐のもりへよえありり
つきすとありと又もりく祇園法師とひく歌仙ありり

古曽部こいくるおよて宵まりけに度ありれ
愚詠ありうつをありることやこれおれ人後世の歌人を
ありるありへく道ありかさりみることもし
人間毀誉非善悪世上用捨有貧福
有財記如石投水乞者許似水投石
又貧古も歌ありおありよりて後悔ありる人ありる
歌ありりありて法ありありりぬるよを方
道よりてりんとありることに歌道ありハ二と号
三ありありりをおありとされりて
隆信定長ら歌ありも後悔ありる名をえる人

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

も隆信いまだつくへて朝夕いとまおろそかに寂蓮法師と名残つくへきを墨染のあるにて云々よし道のとのゝ工夫し給ふ程なく年ゆきかへり後の日の對面の為ともおもひ給へ侍らんの事し

あしき給ふ隆信中給ふとしまれなる我をやくせてふ小寂蓮法師の名をよこさまれらてて世下の名をるのしく給ふとはまゝ多かりこゝろんの事し

苗のてひてて登(ミノラ)すとも父母用ふ法も法道のいのちあるへく民

備まほ山もゝくり来るものもりくく世ま名を照まて

へさこもらせ世我をやくするおほかりうてて給るとの完一あるく民

頼渕鯉魚をとる不幸し

井泉草褐集先折

再菓樹拓童荷船覆

又さるみもあさこれあやうに番考類給るも

うたて給ひこあるへく民ふるうん給れいあるれすさあるせうさ人をひさくもに十ちまてこうさこあるたろか

しくこ死

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

幼而不遜悖長而亡述者不死爲賊又杖其脛
法道よこひれる人ぞもしなほ行ふ代をに欲道おもふ
ありく人ぐまへもろうおひもとうみることなれい実な
雜角九ろくありくく代あ有いおくくれい
いよくくこと道ありき年この頃もりいとうことさうう
井ありれ

多里足下より始高山嶽麁ろう記

佛法も敗壞の無常さくけ男のやみれうせんる
佛法も敗壞の無常さくけ男のやみれうせんる
残る二家もさうもう仏も念くの世あるて
初ての上ぬ忘れさうハ菩薩のくろひこれい年く

歳くれ頃もの新入九年ら一毛ありくく代楚國も屈
系ひとうそさめありこひしー
佛の正法眼藏涅槃妙心ら不存も迦葉ろう
ここで破顔微笑ありしー
單傳密印不立文字の道ありくしこいう
欲道おれるもうのさ風ありくれ経義を混合して
秘蔵古すろうりを代
先聖ろう仏法道ぬ生い寒の暑ぬ人ハ後の経義
あろくれこいへとれもりりくれ相貿ぬ及
こてありくて学てもろうるも仏又ろの外

あるもあるくことあり諸道よ仏法ひろまり学問ひろまるとも相資ける道よりもろもろのことひろまるなり八ばんの技芸も諸道よりおこれり六博奔ことごとくひろまり又楽器絃管雑音曲このごとくひろまるもろもろの又戯蹴鞠すまうこれを習ふあり諸道よりおこれり人ひとり相資ける用大切のことなり由ことに古人も大国も独歩をよしとせず人天下に名ばうとおもふ比比世中よ諸道よりぬもろもろのみちをひらきあるもあるいは階級をたてひらきあるいは猥雑をあらあるもあるいは面のみちをひらき諸道よりぬもろもろのことごとくあるもあるいは舎席をもうけさうず卑出退散の事ことごとくあるもあるいは面七歩の才八足の句よりもろもろのことごとくあるもあるけしうず実よ道の賢愛をうしなふ代猛獣心よあるの時ハ毒虫これうあるよおこりて災害世よあるの時ハ新曲のりのみといへり

ものほこみ奢れねむるものすくなし

すべてのことにあるすべてのことや

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

佛滅後の像法末法の伽藍塔仏像道のごとくに
ちはらへしに九法滅の伽るべくしこ法
ちふかあれこせもそうそうそ〳〵
まひ行れそのせおこうもし道あんさしのんこ
もかくみさけめこひあんこ仏あこせおい羅
漢法も仏のごとく〳〵羅漢
戒をるとすといへ又金銀
會我を宝こする心法道も佛教のごと先指れを
へおこうあれも心こあこ人いこぬあこ
株根の生繁よのれこ代く集九智次こ

多け仏も好士のあまおのハ法
天淳こうおこおこうのよ
発人のものくこ伝受すこ法

老婆痛龍う良薬もへれ
いやこすこし
雖眼見不発心得ぬおちうもあ水ま畫うこと
といへて
弥道も仏のをへれそ心のい
抱のんれまに志あせをもいへ
父い陽をものおいおろうやせ

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

帥こは我ゑてゐもまるつことを外とふ事う
齋柏公の文をよへるを車作義雑志く先人の心
我ゐよてゐうへうとしといへるとありう
明れおゐんうけまをもいはれよ勧れおゐゐ
多のけれをこれゐう多ゐ物
仏法も随機逗機多てて人の要をまこひ
多ゐ〻に説給う
方便愚正直方便智邪とゐ
止〻不須説我法妙難思
冷泉黄門為秀説道をまう
冷泉黄門為秀説道をまう

多好士よゐかけうひつまきあうこと
きるてる必の人のみをやうおくくこもとせん
給うことこれも昭きこ庭訓る式
重仁よゐ多人の心我てるとき重仁よおとそ
多人の詞をこ集こそ
但汝假名引導諸衆生
無性皆得成仏
新連歌も佛の法報應於二身宣假中の三諦の義ゐ
侍へく代好士ゐ上中下の智ゐるへうむてこ
りうこてゐんい義ゐれ多ゐへ五蘊ゐ根を

あるいは行ひ少なけれども
うべし心ざしたくさんなりたけうたた
智分多くして人の機ともちてある時は
時ありて智恵分別ある好士多く
遠よりきたりもとめ給ふ
句ふ法身ハ菌分多くして智分
あらてそれも法ありて
ある好士のこゝにおゐてうるべく
おひうるなり
仏法を説きて
仏法を説りて
仏いつれのすべてを至極の領解と定給ふ
うべく八方法よりて
小さき事に恵ありて感情徳をあらはす事多くして天地
九森羅万象を現し法界の如来の
ちに満ん給へるをもて
内外の仏もいへどその法身
とれさるはなしかゝる
かゝる仏をも正見ありてこと
仏とこへうる庭おの柏樹とこ

あるを作りて善師よそのことを
ありけるに
森羅萬象即法身是故我禮一切塵
仏ありて智門ありて悲門ありてそれらぬありてまた等
道ありて悲門の好士ありて会佛子の衆ありへし
ひとへに一智円通の学問修行もまたそれて
とけの正名我乃ことありのごとく行ふまたく
智門の弟人ハ天台禅法をも兼ねる多くは悲門の
そこれる思託のそこへも生い実ありもろへりと
ありありへハ寒松ありやまのこぬをそこそもま

あるそれつまりのみすまをかくそもまりも
て後ハそひありて一心自性清浄涅槃のさる
ありへし

西方浄土ハ為楽早竟道遠離有無
さありて是非忘相の波浪ありて若悪れ分ようてへ
て十識乃真心ありて若悪を除て後境智も
うるとも幻化の如をもて幻ありの境を縁こするのごし
に幻ありもあるやも
無縁の慈悲をもて一相の清浄有無ハ有皆空ありと
莫津莫ハ是皆非也覚前有無ハ有皆空ありと

有為報佛爰中權果云作之身覚者實佛
先人云大乗十九徳ありへきなれ
ふへしとも
堪能　秋育古　徳引　道心　手拓　筆記　閑人
明師よあへる利性　身ハ
ひおほ我毎備しうる先生ここうえしこれ賢人聖人
よいふ百年ふ事ひてうひあへることいへ大国よも
我ふも備道ふ聖仁賢人よむれあへろこと我の
ひうことへて
文ふも七徳我あく

賢徳　文徳　武徳　慈徳　業徳　恵徳　聖徳
又云
仁儀礼智信愷悌
佛ふも法の宝法の城を七あ仆うさてハ道
ふもうふひ仆ふ
佛法宝
信戒悪懺多閑智恵拾離
欲道寶
数奇　源引　秋人　道心　閑人　秋育古　利根
此二冊ハ廉言随ふ於ふもひ宝ふ新

国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1
ガラス使用

道ハ大虚のごとく人々固く固有上もとより虚
ハ化のうすといへる
迷前是非是皆非也覚来有無有皆空也
諸法實相之外餘皆魔事也云々
裸苔不用貪欲為本則裂捨之旨多し

寛正第二天麩實上向紀列田井庄八王子社參
籠中彼寵牧童小連歌行馬用心一冊頓證之
後難会卒尓不浮短冊任筆左道一首之序ニ被
投畑中志也勿々不一二一人者也

右之ごとき一小浪花茅問伊助真写
所望依心敬自筆之本書写焉

心敬

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『群書類従』 請求記号 127-1
ガラス使用

127
267
1

国立国会図書館　　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『群書類従』　請求記号 127-1